

ITL デイケア業務支援導入時マニュアル

ITL デイケア業務支援システム Version 2 導入時マニュアル

第 1 版
2007年4月1日

はじめに

製品の目的

本製品は、弊社デイケア業務支援システム導入時マニュアルです。システム導入時には、必ずこのマニュアルをお読み下さい。

使用条件

- 1．本製品は、商品をご購入された事業所様に限り、改変・変更を許可いたします。
- 2．本製品および、上記1に基づき改変および変更されたものについて、第三者への配布・転用・無断掲載を禁止します。

ご使用にあたって

弊社デイケア業務支援システムおよびMicrosoft Access2000(2002/2003)が必要です。

お問い合わせ

本マニュアルおよびデイケア業務支援システムに関する操作のお問い合わせは、FAX(0176-25-4584)、電話(0176-25-4586)もしくは電子メール(info@it-l.co.jp)にてお願いいたします。

目次

1	デイケア業務支援システムのCD-ROMからのダウンロード.....	2
2	デイケア業務支援システムの各ファイルの説明	3
3	実行用プログラムとデータテーブルのリンクを設定する	4
4	1台のパソコンで使用する場合	4
5	(2)複数のパソコンで使用する場合	6



ブラウザの右上の×ボタンを押して、ブラウザを閉じます。

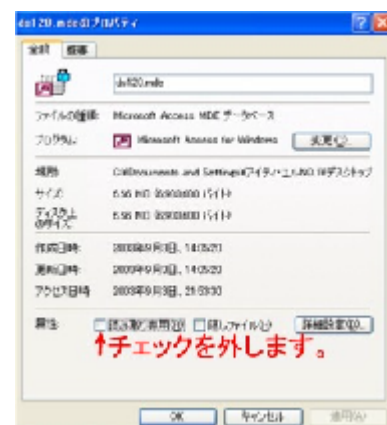
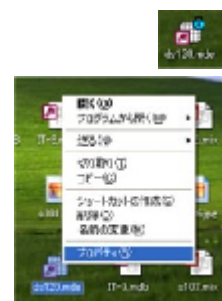
デスクトップ上に上記 3 つのファイルが正しくダウンロードされたことを確認します。

(Windows2000 の場合)

デスクトップ上のそれぞれ 3 つのアイコンの上で右クリック 「プロパティ」を選択します。

読み取り専用のチェックを外します。

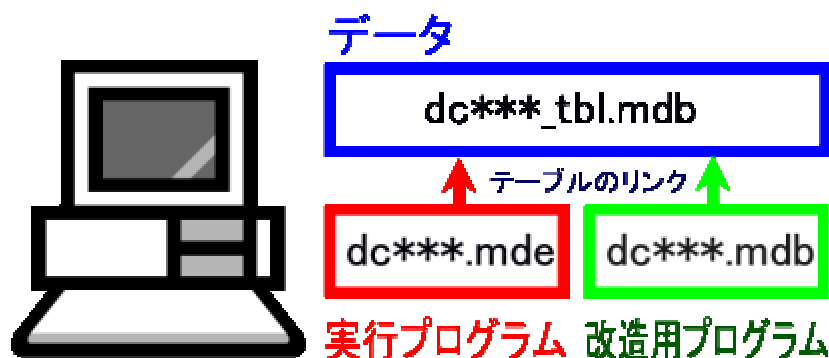
(Windows Xp の場合は、ダウンロードした時点で読み取り専用のチェックは、外れていますので、 の操作は不要です。)



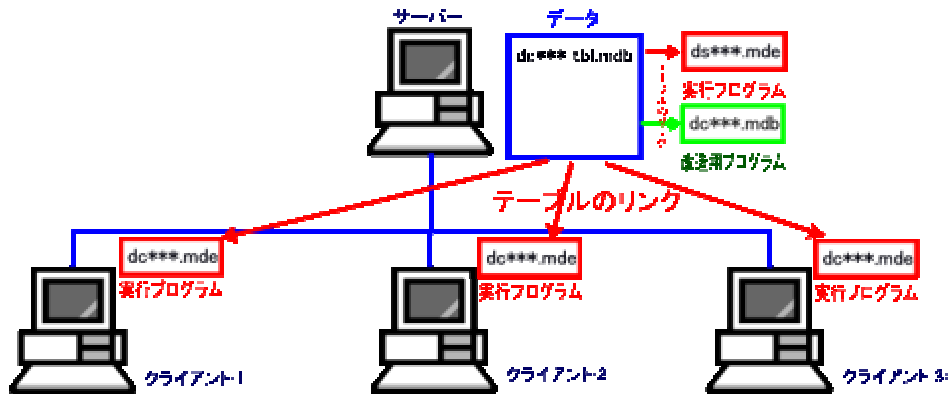
2. デイケア業務支援システムの各ファイルの説明

デイケア業務支援は、基本的には 2 つのファイルつまり、データを保存するデータテーブルと画面や帳票レイアウトなどを収録した実行プログラムで動作します。

他に Access 標準のファイル形式の dc***.mdb は、御事業所で独自に改造したい場合などに使用するマスターファイルです。改造に際しましては、別紙仕様マニュアルをご覧ください。



実行プログラムとデータテーブルは、Access のテーブルのリンク機能でリンクされます。
データテーブルを共有することにより、LAN 環境で複数の PC が同一のデータベースを共有することができます



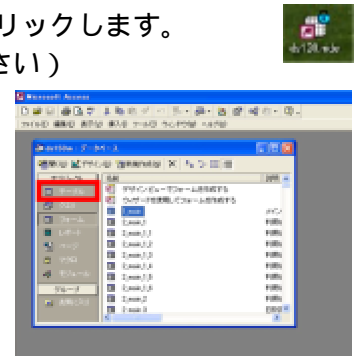
3. 実行用プログラムとデータテーブルのリンクを設定する。

(1) 1 台のパソコンで使用する場合 (3 つのファイルがすべてデスクトップにある例)

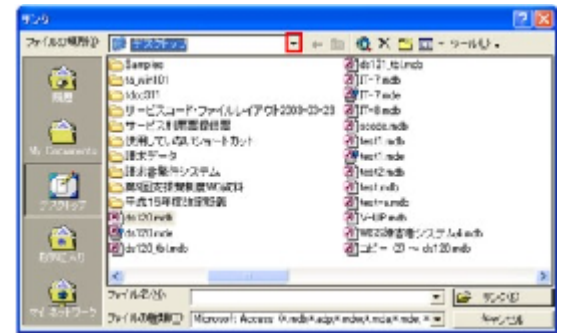
シフトキーを押したままデスクトップ上の dc***.mde をダブルクリックします。
(システムが完全に起動し終えるまで、シフトキーを離さないで下さい)

Access が立ち上がり、システムが起動します。
シフトキーが押されていることにより、プログラムの自動実行機能が停止され、システムを構成しているオブジェクトの一覧が表示されます。
画面左のオブジェクトメニューの[テーブル]を押します。

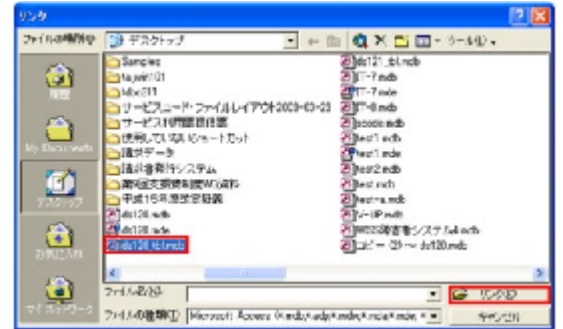
「ファイル」「外部データの取り込み」「テーブルのリンク」を選択します。



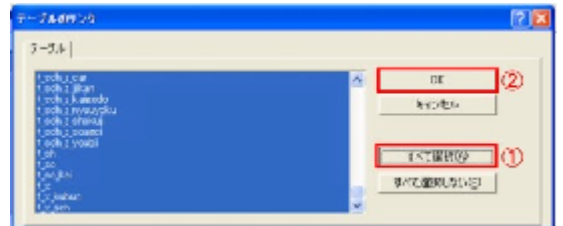
ファイルの場所を選択します。(ここではディスクトップ)



ファイル (dc***.tbl.mdb) を選択し、「リンク」ボタンを押します。

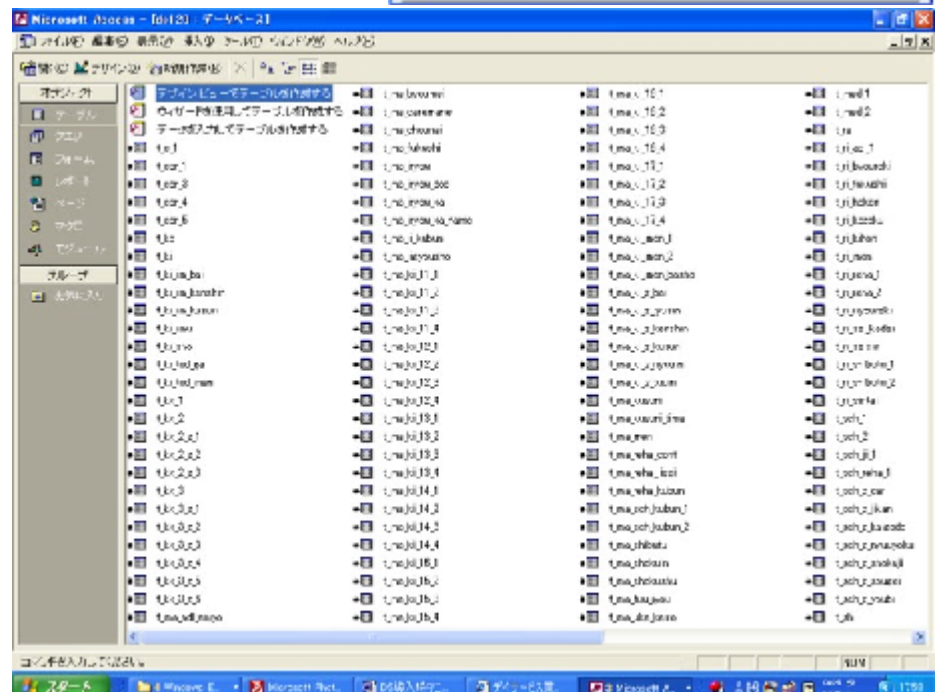


[すべて選択]を選び、[OK]ボタンを押します。

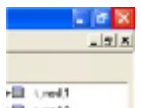


まもなく、テーブルのリンク情報が画面に表示されます。

以上で、プログラムとデータテーブルが接続され、システムを稼動することができます。



画面右上の Access の画面窓 (赤色) の [x] ボタンを押して、システムを終了させます。



デスクトップ上の dc***.mde をダブルクリックしますと、システムが起動します。
引き続き、デイケア業務支援操作マニュアルをご覧ください。



御事業所において、今後独自に画面および帳票の変更などをお考えの場合は、上記 ~ の手順で改造用プログラム dc***.mdb におきましても、データテーブルとリンクさせておきてください。

(2) 複数のパソコンで使用する場合

サーバー機(データテーブルが存在する PC)の C ドライブに”DC 業務支援”フォルダを作成し、この中にデータテーブルを置き、このデータテーブルをクライアント(残り 3 台)がリンクする例

LAN環境でご使用の際のご注意

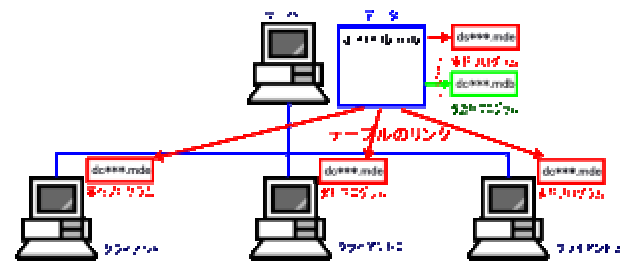
本システムを運用する際、ネットワークには、相当のネットワークトラフィック(情報量)が発生いたします。無線LANのような低速の環境下では、画面表示などに遅延が発生する場合があります。新たにLANを敷設する場合は、有線LANをお勧めいたします。

特に請求業務は、ネットワークに相当の負荷がかかりますので、サーバー機は、主に請求業務を行うPCに設定してください。

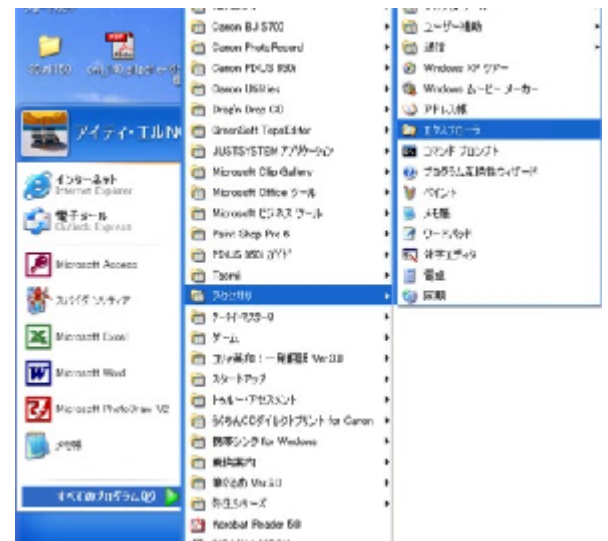
LAN環境でご使用の場合は、必ず、PC毎にCD-ROMからプログラムをダウンロードし、PC毎にリンクを張って下さい。

この設定は、御事業所のパソコンが LAN(ネットワーク)構築されていることが前提となります。

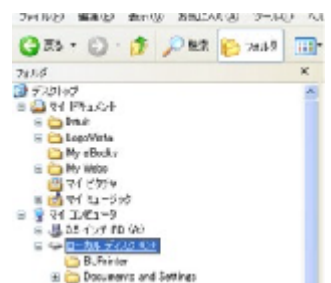
サーバー機(データテーブルが存在する PC)とクライアント機を決めます。クライアントはサーバー機のデータテーブルにつながっていますので、サーバー機は常時電源が入っている必要があります。



[スタートボタン] [すべてのプログラム] [アクセサリ] [エクスプローラ]を選択します。



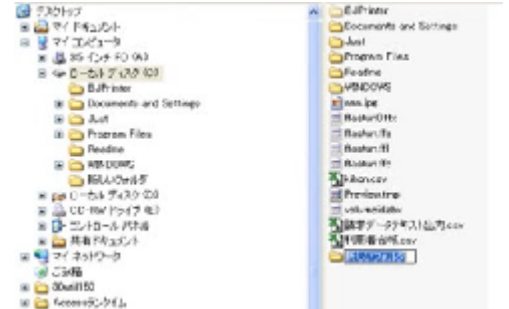
「マイコンピュータ」の中の「ローカルドライブ (C:)」を選択します。



「ファイル」「新規作成」「フォルダ」を選択します。



「新しいフォルダ」の名前を[BackSpace]キーを使って削除します。



名前を「DC 業務支援」と打ち込み、最後に[Enter]キーを押します。



「DC 業務支援」の上で右クリック 「共有とセキュリティ」を選びます。



「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」にチェックを入れます。

○共有名が「DC 業務支援」になっていることを確認します。

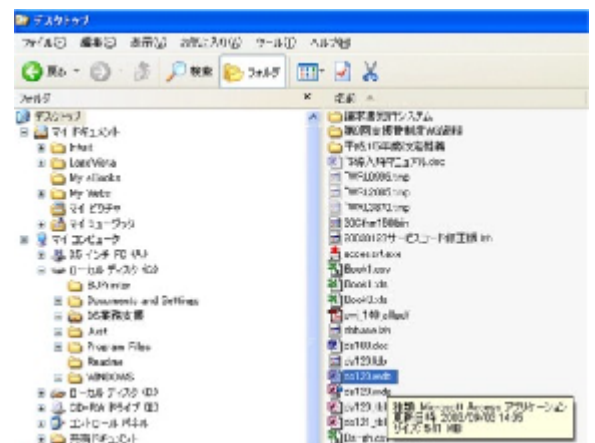
○「ネットワークユーザーによるファイルの変更を許可する」にチェックを入れます。

○[適用]ボタンを押します。

○[OK]ボタンを押します。



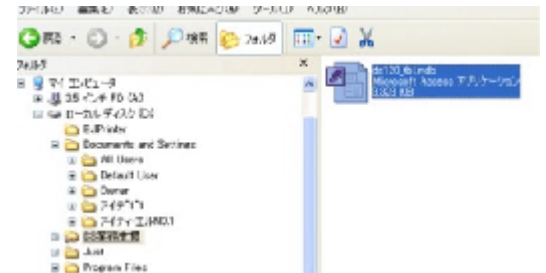
エクスプローラで「ディストリップ」を選び、データテーブル(dc***_tbl.mdb)を選択します。



dc***_tbl.mdb をドラッグ（左ボタンを押したまま、左に移動）し、ローカルドライブ（C）の「DC 業務支援」フォルダに移動させ、ドロップ（指を離す）します。



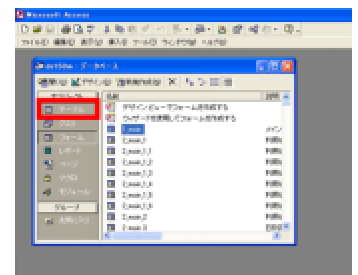
「DC 業務支援」フォルダをクリックし、デスクトップから ds***_tbl.mdb が移動したことを確認します。



シフトキーを押したまま、デスクトップ上の dc***.mde をダブルクリックします。



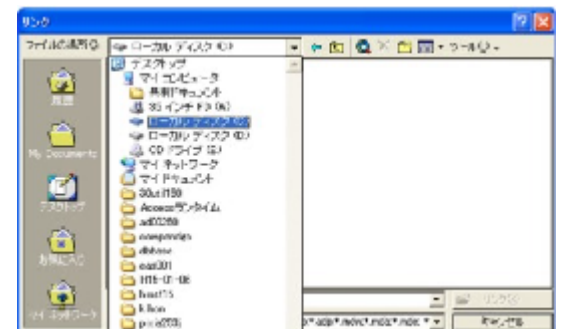
Access が立ち上がり、システムが起動します。
ストキーが押されていることにより、プログラムの自動実行機能が停止され、システムを構成しているオブジェクトの一覧が表示されます。
面左のオブジェクトメニューの[テーブル]を押します。



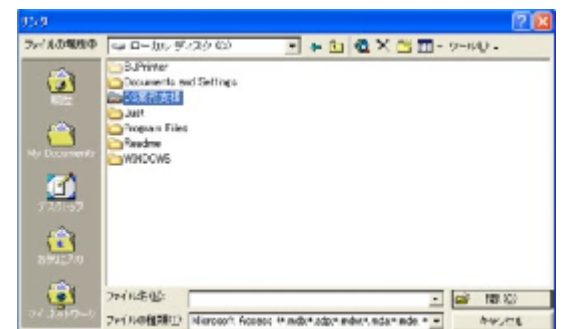
「ファイル」「外部データの取り込み」「テーブルのリンク」を選択します。



ファイルの場所を選択します。（ローカルドライブ（C））




「DC 業務支援フォルダ」を選択します。



[illegible][illegible]

22 画面右上の Access の画面窓 (赤色) の [×] ボタンを押して、システムを終了させます。



2) クライアント機の設定

10

ク同様に、それぞれ、データテーブルとリンクします。リンク先は、マイ・ネットワークまたは、ネットワークコンピュータ上の DC 業務支援フォルダ内とします。



デスクトップ上の dc***.mde をダブルクリックしますと、システムが起動します。
引き続き、デイケア業務支援システム 操作マニュアルをご覧ください

ITL デイケア業務支援システム導入時マニュアル

2007年 4月 1日 発行

発行・制作・著作 有限会社 アイティ・エル

Microsoft、Windows Access2000(2002)は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

本書および本書で利用するデータファイルの一部または全部を無断で第三者に配布・譲渡・販売することはできません。

Copyright(c)2003 Information Technology Laboratory. All rights reserved.